

キーワード

思考力・判断力・表現力の育成を図る指導のあり方
—小中連携の取り組みから—

標 題

言語活動を取り入れた授業の工夫

①学校の概要（平成25年7月12日現在）

・児童生徒数123名 ・学級数6学級 ・教職員数20名

②取組を始めた経緯

平成23～24年度に学力向上実践校の指定を受けて、小中連携のもとに取り組み、大きな成果をあげることができた。この実践を踏襲し、さらに学力向上に向けて努力を継続している。

③取組の実施体制

本校を拠点校とし、町内3小学校との連携を図り、①合同授業研究会、②教師力の強化、学校力の強化に取り組んでいる。また、本校においては、「生活を考える部会」と「学びを考える部会」を設け、具体的な取り組みを行っている。

④学力向上に向けた具体的な取組

具体的な取組として、以下のような項目をあげることができる。

○生活を考える部会での取組

- ①家庭学習の手引き作成、活用 ②自主学習ノートの活用
- ③家庭学習チャレンジ週間の計画 ④生活習慣改善の取組

○学びを考える部会での取組

- ①授業規律の定着 ②発表形態・話形の定着 ③オープンスクール
- ④ノートの書き方指導 ⑤授業シラバスの掲示

○小中連携指導の一貫性・系統性

- ①相互授業参観 ②町内教職員の意見交換会 ③児童生徒・教職員アンケート
- ④小6対象のオープンスクール ⑤町教育会 ⑥学習規律の統一 ⑦ノーメディア週間

○保護者との連携

- ①町広報誌、学校新聞による取組の紹介 ②家庭学習への取組の協力
- ③学用品整備に関する協力 ④家庭での生活習慣確立 ⑤ノーメディア週間への協力

⑤取組の成果と課題

平成23～24年度に学力向上実践校の指定を受けての取組の中で、特に「ノーメディア週間」は効果があった。町内3小学校及び3保育園とも連携をして、年3回（1回につき1週間）の実践は、学校・家庭・地域が一体となり、意識して、その週間はメディアに触れる時間を最小限にしようとするものである。この取組を通して、日頃いかに多くの時間がメディアによって費やされているかを認識し、またその時間を学習に使う機会として有意義である。

⑥取組の継続・発展の要因

学力向上の取組として大きな効果を上げているのが、自主学習ノートの活用である。小学校から取り組んでいる校もあり、小中連携の大きな柱にもなっている。さらに家庭での助言、励ましも生徒のやる気につながっている。そこで今年度から「コメントシール」を準備し、定期的に保護者からのコメントをノートに貼って提出していただき、家庭と学校の連携がさらに深まることを狙っている。

⑦管理職・中核教員等のアクション

学力向上の取組については、「生活を考える部会」と「学びを考える部会」が研究の中心となって取組を行った。各部会の推進と並行して管理職、研究主任、教務主任、各部会の代表が学力向上推進委員会を運営し、進行状況の確認などを行った。また研究主任は町内研究主任連絡協議会に参加し、小中連携の取組を具体化していった。

⑧資料・写真等



小6対象のオープンスクール

～発表の仕方5カ条～

- ・「はい」と返事をして発表する
- ・大きな声で発表する
- ・ゆっくりと丁寧に発表する
- ・発音をはっきりと発表する
- ・相手を見て発表する

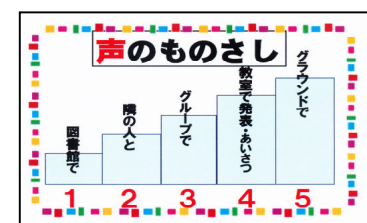
～聞き方5カ条～

- ・相手を見て聞く
- ・だまって最後まで聞く
- ・共感できたらうなずく
- ・必要なことがあればメモをとる
- ・疑問なことや聞き取れなかったところは、もう一度確認する

～発表の話形～

指名されたら「はい」と返事をしてから

- ～です。
- ～だと思います。理由は、～だからです。
- ～さんところが～です。
- ～さんと同じ～です。
- ～さんにつかたして～です。



教室掲示の統一した発表形